

北陸石仏の会々報

第 22 号
平成12年9月30日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三一三二一 二七七二
振替 〇〇七四〇一三一 一九七四

石仏探訪砺波編

富山市 深山節代

「実は、私はカトリックの信者でして、今日は日曜日だから、本当は、教会のミサに与かっていないといけないのに、どういう訳か『石仏の会』のバスに乗っているのですが……」
と、マイク片手の私のことばに、バスの中は大受けでした。

「やっぱ、こっちのほうか、勝ったか」なんてことばも聞かえてきたりして……。いつの頃からか愛らしい石仏に何となく親しみを感じて、仏教を学ぶかたわら、石仏を辿らせてもらっています。何かしら、石に彫られる仏さまって、人間の「意思」にも、「意志」にも通じる感じがして、その土地の風土に育まれてゆく人間に最も身近かな信仰の姿のように感じています。地球上で人間よりも、はるかに大先輩の石に、人間の意思から、意志になって、仏さまの姿が現れてくるのでしょうか。

富山県砺波地方の石仏見学会に参加させていただきました。いつもの日帰りとは違って、日本石仏の会と合同での宿泊による二日間だったのですが、残念ながら、五月十三日土曜日は他の用事で出かけられず、十四日、日曜日だけになってしまいました。

した。宿泊かなわぬ身は、前日から参加の人達と庄川荘で落ち合いました。まずは、井波町今町のリアルで躍動的な馬を彫り込んだ軍馬慰霊塔に心ひかれました。神社のご神体の鏡にみたてたような、丸い円の中に写実的な馬が彫られていました。聞くところによると、去勢された軍馬を不憫に思った獣医さんが、建ててくださったそうです。それは、男としての不憫さであつたのだろうか……。それとも、嫁を採る娶こともなく戦争に駆り出されて行つた、年若い青年たちへの鎮魂でもあつたのだろうか、そんなことまで思いを巡らせていました。

砺波地方は聖徳太子南無仏が多くあるということ、以前から耳にしていたのですが、ほんとうにゆく先々に、太子像が祭られてありました。特に、砺波市大門の地藏堂の中の聖徳太子像は、地元庄川金屋から採掘された、青色凝灰岩に彫られたものだということでした。めずらしく跪いていて、玉眼の感じがして、「えっ、じゃ、どんなにして埋め込んだのだろう？」と頭に？マークをちらつかせていたのですが、

「木彫ではないわけだから、上から張り付けているんじゃないかな……」
と、そんなところで落ち着いていました。そして、びっくりするほど、りっぱな専用の地藏堂に安置されていました。十四日最後の訪問地、小矢部市石動の曹洞宗永伝寺の、四国八十八ヶ所観音の姿の美しさに惚れ惚れとしました。堅い石に彫られた

とも思えぬほどに線が美しく流れる感じで、熟練した石工の技と、高められた折りの姿が彫り込まれているように感じられました。

八十八ヶ所霊場の本尊の一つか、涅槃像がとても可愛らしかった。涅槃像はあまり見かけないのですが、私のもっとも惹かれる姿の石仏です。

この日、他にもいろいろに回ったのですが、実のところ私は、この日に赤い前だれをリュックの中に忍ばせていました。以前、ある方に手縫いの赤い前だれを三枚いただいたいて、その一枚は私が今生から「おさらば」できた時に、墓石の代わりに石仏を立て欲しいと子供たちに遺言していのるのですが、その分として。後の二枚は、どこかの無縁仏になってしまっただけいな石仏に：と、そう思っていました。けれども、それっきりになつていたので、今年の三月十二日にその方が亡くなったことを知り、今回、どうしても、どこかの石仏にと思っておりました。けれども、十四日のそれが果たせなかつたのですが、十五日に番外編があるというので、無理を言つて参加させていただきました。十五日は、舟倉用水の守護神として祭られていたらしい、大沢野町直坂の弁才天から辿らせてもらいました。不吹堂の境内でのお話で、「このあたりは、砺波地方の影響が色濃くあるですよ。そして、昔あちこちにあった『間引き』ということがなかったとこなんですよ。」との尾田武雄氏のことばに、「えっ！」と、思ってしまった。私の先祖は、五島列島に逃げ延びた、長崎の潜伏キリシタンなのですが、キリシタンに転向したきつかけが、そのころ盛んに行われていた『間引き』を避けたいということだったと聞いていたので、思いがけず共通点を見つけてしまいました。

その後、直坂の蚕神は、繭の上ののつて桑の木をかついだ女神さまでした。昔はこのあたり一帯に桑畑が広がり、かつては郡内一の繭の生産量を誇っていたそうです。その土地の姿は変

わつても、先人たちが遺してくれた石仏のお陰さまで、昔の様子を想像する楽しみがあります。

そこから少し足を伸ばして、神通川をさかのぼり、東の高原川、西の宮川の分岐点あたりまで、道祖神など、たくさん数の石仏が安置され、今でも近隣の人々によって信仰されているようでした。そして、そこから少し離れたところにある、一体の石仏に一瞬目が止まりました。風雪に耐えた姿は、輪郭だけになっているのですが、如來さまの座像のようでした。写真を一枚写して、それから例の赤い前だれをかけさせていただきました。その途端に、雨の粒が落ち始めました。

後日、平井一雄氏から送られてきたハガキに印刷された、二十八年前の白黒の写真の輪郭だけの石仏は、胸に手を交差した女人像でした。

二十八年の歳月に削られていった、その姿の哀しさは、生かされていた人間の記憶も、そんなふうには薄れてゆくのかなといった思いと、相俟つて、いつそう、せつない心持ちになってしまいました。

その後、大急ぎでバスに乗り込み、対岸に移つたら、「山の中腹あたりの窪みは、昔の道筋であり、昔は馬や牛が荷を積んだまま、落ちたりすることがあったんだよ」と、指差す彼方に目をやりながら、話してくれた方がいました。どうりで馬頭観音や、牛の守護神でもあるという、金剛界大日如來が多く目につくのが納得できました。

途中、屋敷神さまなどの説明を受けながら、身近なところに折る対象として、石仏を彫り願いをかけて、真摯に生かされてきた先人たちの信仰心を思いました。そして、その精神は今も、信仰する姿を見つめる子供たちによって、受け継がれてゆくことを願わずにはいられません。子供たちの遠足のコースに石仏探訪など組み込まれたらいいのになと、そんな思いもちらりとしながら…。

第22回例会報告

平成十年十月の第19回例会に続き二回目の「砺波の石仏」探訪である。今回は日本石仏協会共催ということで、全国の協会員18名と当会から26名の出席があった。この地方のきれいな石仏、身近な庶民信仰がいきいきとしている状況に感激されたようです。協会員の礼状がありますので掲載します。(尾田)

昨日、今日と本当に楽しい石仏めぐりにまけていただいております。中野での集合写真よかったですらお願い致します。西元先生とお会い出来て中野の幻の十三番の藤井さんは私のいとこのおくさんでした…！とてもいろんな出会いがあり、うれしいことでした。かしこ

(砺波市 永井邦子)

前略 このたびは貴北陸支部のお力添えにより実施されました砺波地方の石仏めぐりの新聞をお送りいただきまして有難うございました。



よい記念になりました。カラーコピーを致し関係者にお渡しする所存でおります。

また、先日は『北陸石仏の会研究紀要』その他をご恵贈賜り恐縮に存じます。貴北陸支部の活動と会員諸氏の研究熱心には敬服した次第です。

貴北陸支部のご隆盛を祈念申し上げます。先ずは取急ぎ御礼のご挨拶まで。早々

(横浜市 青木安勝)

前略 このたびの石仏巡りではたいへんお世話になりました。計画から見学会の実施までのご苦勞のほどお察し申し上げます。

また、ご多忙のところ三日目までもお時間を煩わしまして恐縮しております。おかげさまで楽しく石仏巡りができたことを深く感謝致しております。今回の見学会により「北陸石仏の会」の皆様と交流ができましたことを喜んでおります。今後もなにとぞよろしくお願い申し上げます。

先ずは取急ぎ御礼まで。早々

(横浜市 青木安勝)

このたびの「砺波地方の石仏見学会」に参加させていただき、皆さんの二日間の心からの歓迎と熱心なとりくみに本当に感謝しております。私の「つまり石仏の会」では一昨年、坂口和子先生率いる「飯能石仏談話会」を五月、「日本石仏協会」の一泊見学会を十月に引き受け実施いたしましたので尾田さん達のご苦勞のほどをよくわかります。ありがとうございました。

おかげさまで富山地方の石仏について実際にこの目で見、そして説明を聞いておぼろげながらわかってきたような気がしま

す。またゆつくりと見学に参りたいと思います。会のみなさんにもよろしくお伝えください。まずはお礼まで。これを機会に今後よろしく。

(新潟県津南町 島田常雄)

拝啓 日一日と緑が濃くなっております。

さて、先日は砺波地方の石仏見学会に参加させて頂き、大変お世話になり、且つ、懇切ごといねいな解説をしていただき有りがとうございました。おかげ様で、二日間充実した時を過ごすことができました。と、かく砺波の素晴らしい石仏に接し、その水準の高さに、信仰の深さに驚きと共に感激をおぼえました。お世話になりましたこと、厚くお礼申し上げます。表の写真は一昨年富山長慶寺を訪ね撮したものです。機会をつくって、いつか、砺波を再訪したいと思っております。今後とも宜しくご指導くださいますように。

乱筆ながらお礼まで。敬具

(平塚市 梶川賢二)

拝啓 御当地の水田も緑がこくなってきましたでしょうか？

今回の探訪会ではいろいろ大変お世話になりましたありがとうございます。又、新聞記事も送っていただきとても記念になります。写真と一緒に残したいと思っております。庄川地方には以前よりともあこがれていまして、この度参加出来、人情、水、空気、お

だやかな石仏、すべて感動ものでした。また、石像の展示会まで拝見出来、地元の皆様の準備、ご苦労もさぞかしと思っております。福井県出身ですので、地元の方とも話しがはずみ、と

てもうれしゅうございました。おそくなりましたが、心よりお礼申し上げます。かしこ。

(神奈川県大和市 酒井直代)

◎参加者名簿

上田信子 大野猪策 岡田静子 尾田武雄 加藤永子
北村市朗 久世嘉太郎 源田 孝 島倉千春 新町美恵子
千秋謙治 滝本靖士 竹守一治 竹守澄江 永井邦子
永井哲朗 中川 達
西田栄一 西元多美子
林 貞子 平井一雄
深山節代 松村 優
松本和子 南 金三
南外志雄 青木安勝
大津和弘 小川栄一
会田秀介 梶川賢二
加藤 勲 川崎文江
木村良平 酒井直代
坂口和子 佐藤栄治
三代川千恵子
島田常雄 鈴木助晴
中原数一 中村 博
野口 進 森田道男



平成11年度決算報告

(収入の部)

項目	予 算	決 算	備 考
前期繰越金	18,718	18,718	
会 費	240,000	241,000	71×3,000 2×5,000 2,000×9
雑 費	1,282	66	預金利子
合 計	260,000	259,784	

(支出の部)

項目	予 算	決 算	備 考
事 務 費	30,000	45,150	名入り封筒
会 報 費	50,000	44,100	会報No.20、21号
郵 送 費	60,000	48,750	切手代
会 誌 費	110,000	110,000	『北陸石仏の会研究紀要』3号補助
予 備 費	10,000	3,070	新潟石仏の会会費
合 計	260,000	251,070	

収入合計 259,784 - 251,070 = 8,714

次年度繰越金 8,714円

平成12年4月15日

平 井 一 雄 ㊟

平成12年度予算書

収入の部

前期繰越金	8,714	
会 費	240,000	3,000×80名
雑 収 入	1,286	利息
合 計	250,000	

支出の部

事 務 費	30,000	事務用品、コピー代
会 報 代	40,000	会報代
郵 送 費	60,000	切手代
会 誌	110,000	北陸石仏の会研究紀要
予 備 費	10,000	
合 計	250,000	

平成12年度事業計画

5月 第22回例会 砺波市(富山県)

10月 第23回例会 未定

その他、新潟県石仏の会例会に便乗を計画

会誌『北陸石仏の会研究紀要』第4号発行(平成12年中)

会報は年3回を目標とする

新潟石仏の会と連絡を密にする

役員構成

顧問	京田良志(富山県)
顧問	久世嘉太郎(石川県)
会長	北村市朗(福井県)
副会長	柳沢栄司(富山県)
	吉川繁(新潟県)
事務局	尾田武雄(富山県)
理事	滝本靖士(石川県)
	大久保まさ子(福井県)
	島倉千春(富山県)
	大野猪策(富山県)
監事	平井一雄(富山県)

講演会のお知らせ

「いのちはことばにいのちする」

講師 岩下栄治先生

◎日時 平成12年11月19日(日)

午後2時～3時 講演会

午後3時～4時 対話

◎場所 富山県総合福祉会館サンシップ・ホール

◎会費 大人1,000円 中学・高校生500円

◎主催 『はせんか』(代表 深井節代・当会員)

◎後援 北陸石仏の会他多数

◎連絡先 富山市本郷町1区220-11

深山節代 TEL 076-422-4957

北陸石仏協会の会長就任の御挨拶

北村市朗

残暑御見舞申し上げます。

今年の夏はまさに異常でしてこの暑さにも負けず、会員の皆様御健勝のことと存じます。

去る五月十三日の総会の席上、突然会長就任の命令を受けました。総ての譬えで三代目が確りしなくては破滅の道を辿ると言います。就任したからにはそうならないように皆様の御協力を得て任期をまっとうしたいと思えます。何卒よろしくお願います。私は全くの素人ですが、素晴らしい方々が多数おられますので安心です。

石仏に限らず広く石造品とか製作者とか年代にも光りをあてて北陸石仏の会研究紀要に投稿してほしいとも日頃考えておりました。皆様自慢の石仏の写真等もご披露してくださいさる道もあります。

私は長野の生まれですので、長野を入れて北信越のブロックになれば良いなと思つたこともあります。長野の二つの郷土史会に所属していますので情報を得たいとおもつたりもしました。

五月の例会には日本石仏協会の皆様とも共同の研修ができて単に北陸にとどまらず全国の会のあることも知りました。夢は広がります。尾田事務局長さんをはじめ皆様のご指導をえて頑張りたいと思えます。就任にあたり御挨拶といたします。

(武生市若竹町八一二一)

北陸石仏の会第23回例会案内

富山県大山町日尾・石淵・馬瀬の石仏探訪

◎日 時 平成12年11月12日(日)

◎集 合 砺波駅南PA 午前8時

高岡駅南PA 午前8時30分

富山駅北PA 午前9時30分

◎解 散 午後3時30分

◎参 加 費 五千円

◎申 込 み 次の事項を記入の上必ずハガキで

住所・氏名・電話番号・集合場所

◎申 込 先 〒939-1315 砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

北陸石仏の会事務局

TEL 〇七六三―三三―二七七二

◎見 学 予 定 切 平成12年11月1日

一、日 尾

①庚申塚碑 ②六地藏堂

③万泉寺境内石仏 三十三箇所観音、地藏、釈迦、無縫塔

二、石 淵

①耳地藏堂 水天 ②かけ地藏

③水神社 水天、稲荷(大福大明神)

三、上馬瀬

①阿弥陀如来、鷹崖仏 ②金毘羅石像、不動明王

昼食

上滝大川寺の石仏

①大川寺公園口 左立山道標

②青面金剛像、役神社、大川寺山三十三観音(十一面観音石仏、千手観音)

③大川寺前六地藏(三体一石仏2体)

④大川寺前八十八箇所石仏、境内石仏群、三十三観音堂